

大阪「坐摩神社」

愛用の『でっか字まっぷ大阪 24 区』を見ていて、どう読んだらいいか分からない神社があった。西長堀の大阪市立中央図書館の帰りに、本町近くにある神社に向けて歩いた。高速道路と高層ビルに囲まれた「坐摩神社」に着き、境内をぐるり回った。

神社の御由緒には次のように書かれていた。「神功皇后新羅より御帰還の折、淀川南岸の大江田蓑島後の渡辺の地に奉祀せられたことに始まる。延喜式神名帳には攝津國西成郡の唯一の大社と記され、往古より産土神として今日に至る。坐摩（いかすり）の語源は、土地又は居住地を守り給う意の居所知（いかしり）が転じたものと伝わる。天正十年（1582）豊臣秀吉の大坂築城の際替地を命ぜられ、寛永年間現在地に遷座。現在の鎮座地名を渡辺と称するのは元の地名が移されたことによる。故に全国の渡辺・渡部等の姓の発祥の地とされる。……」

坐摩神社の住所は、大阪府中央区久太郎町4丁目渡辺3号となっている。案内によれば、豊臣秀吉時代までは、今の天満橋南詰辺りにあり、その付近の地を「渡辺」と言い、現在地に遷座する際に元の「渡辺」の地名も移転した。レポートで紹介した西三国にあった「渡辺邸」も、関係するのだろうか。

坐摩が「いかすり」とは読めなかった。地図によると神社近くに「せともの問屋街」がある。この神社で「せともの祭」が7月に行われる。「横堀川の舟運に恵まれ、かつて“せともの町”と呼ばれた江戸堀、新町にあった約200軒

の陶器店が蔵ざらえの市を開いたのが始まりです。傷やひびが入っていても捨てがたい器類を持参すれば、感謝の気持ちを込めて茶碗供養をしていただけます。この伝統ある「火防陶器神社のせともの祭」は大阪市無形民俗文化財に指定され、陶器市は勿論のこと、陶芸教室や願掛け皿奉納など様々なイベントを行なっています」と書かれていた。

境内に「上方落語寄席発祥の地」という碑もあった。江戸時代後期、ここ坐摩神社で開いた咄の席が、上方落語の寄席興行の始まりという。坐摩神社が上方落語にまで関係するとは。いろいろ発見できた「小さな旅」、まち歩きだった。



(2018年5月15日)